

環境意識の向上・コミュニケーション

Environmental Awareness
and Communication

URは、全ての職員が環境問題に関心を持ち、環境の大切さを伝える取組を行っています。環境課題の解決には社会全体で進めることが重要であるため、関係する皆さまと一緒に考え、行動し、豊かで潤いのある環境と持続可能な社会の実現に向けて取り組みます。



職員の環境意識向上



オフィス部会の開催

URでは年に1回オフィス部会を開催し、省エネ法やUR-eco Plan 2024に基づく必要な措置及びその推進について、各本部支社の職員で議論しています。

令和6年度は移転したばかりの中部支社を会場とし、執務室の見学等を行い環境配慮に関する意識を高めました。

職員の環境意識の啓発活動

セミナーやレポート、社内研修等を通して、職員の環境意識向上を図っています。令和6年度は外部講師を招き、持続的なまちづくりや脱炭素社会の実現に向けた取組について講演いただきました。

〈都市環境セミナー開催〉

都市環境セミナー

第1回

暮らしの風景の 見つけかた、楽しみかた、伝えかた

講師 慶應義塾大学 環境情報学部 教授 石川 初 氏



第2回

断熱と設備による住宅の脱炭素化がもたらす 子どもから高齢者の健康便益

講師 慶應義塾大学 名誉教授 伊香賀 俊治 氏



第3回

国内の資源を活かした木造建築による循環と 脱炭素社会の実現

講師 名古屋大学大学院 生命農学研究科 教授 山崎 真理子 氏



東日本都市再生本部では、URの個別プロジェクトの経験や実務のノウハウを組織的な知見とすることを主な目的として、本部で推進している事業の最新情報や着目すべき社会の動向等について、社内プラットフォームを活用し、本部内職員を対象とした動画配信等を行っています。

この中で、環境に関する職員のリテラシー向上を目指した情報発信も行っており、令和6年度は、社会的な潮流となっている「GX※1」、特に国土交通省が進める「まちづくりGX※2」についての情報発信を行いました。

まだ言葉としては新しい「まちづくりGX」について、職員が自分事として捉え、事業を進めていく上で必要となる最低限の知識や実行に移すプロセスを理解することができるように、基本的な考え方や国内外の動向、参考事例等を取りまとめ、事業推進上のポイントを社内向けに発信しました。聴講者からは、「事業検討を進める上で重要な視点だ」「個人によって知識に差があるので説明はありがたい」という意見が出る等、GXへの関心の高さがうかがえました。

また、社外の関連セミナー開催予定等についても随時展開・周知することで、各自が選択して情報収集できる機会を創出しました。

引続き、職員一人ひとりが環境に関する社会的な潮流をキャッチアップした上で事業を推進していけるよう、職員への積極的な情報発信を行っていきます。

※1 「カーボンニュートラル」の実現に向けて、主要エネルギーの転換等社会のシステムを変革しつつ、経済成長を同時に実現していく取組

※2 気候変動対応や生物多様性の確保、well-beingの向上に対して大きな役割を有している都市緑地の多様な機能の発揮、及び都市におけるエネルギーの面的利用の推進を図る取組

担当者のひとこと

国が進める施策について、自分自身もまだよく理解できていない中、いかに分かりやすく職員に伝えるか、資料の作成に苦勞しました。職員が日々業務を進める中で少しでも参考にしてもらえよう、今後も情報発信していきたいと思っています。



▲内部会議の場で解説

URの団地には40万本以上の樹木が植えられており、ヒートアイランド現象の緩和や生き物の住処としての役割が期待されています。この豊かな緑を屋内でも活かすため、オフィス緑化の試行プロジェクト



▲本社オフィス内の緑化

を令和6年7月から開始しました。

団地内の緑地に自生している、種から発芽したばかりの若木（実生）や、団地内で拾ったどんぐりから発芽させた鉢植えを用いて、会議室やデスク上を緑化しています。これらの取組により、オフィス環境の改善、職員のコミュニケーションの活性化や環境意識の向上につながっています。

担当者のひとこと

団地で生まれた緑を使ったURらしいオフィス緑化を目指して取り組んでいます。今後はオフィス緑化に留まらず、社内外問わず団地における豊かな緑を実感してもらえるツールとして発展できるよう検討中です。



▲どんぐりから芽生えた鉢植え

業務の効率化による環境負荷の低減

テレワーク勤務制度、始業時刻変更制度等の柔軟な働き方を進めることで業務の効率化を図り、環境負荷の低減にもつなげています。

環境にやさしいライフスタイルを支援

地域の方々とともに、自然環境とのふれあいや環境にやさしい暮らしを培い、継承していくことを支援したいと考えています。

UR賃貸住宅にお住まいの方への環境配慮の呼びかけ

バルコニーでの緑のカーテンづくりを支援する等、環境配慮の呼びかけを行っています。令和6年度は、栽培キットや苗を155団地、4,894戸の住宅へ配布・提供しました。

地域やお住まいの方とのコミュニケーション

UR賃貸住宅や地域にお住まいの皆さまと一緒に、ワークショップやイベント開催等を通してコミュニケーションを図り、環境配慮に向けた連携を進めています。

事例紹介

千葉ニュータウン中央駅前の花植え

北総鉄道「千葉ニュータウン中央」駅（千葉県印西市）の駅前自由通路にある花壇で、市民参加による「花植え」を毎年春・秋に開催しています。これは、駅前の環境美化と、市民がまちへの愛着を育み人のつながりをつくることを目的に、URのグループ会社である株式会社千葉ニュータウンセンターが主催しているものです。北総鉄道、千葉銀行、京葉銀行、千葉興業銀行の後援をいただきつつ、印西一まち会、吉高の大桜を守る

会、印西市市民活動支援センター等の団体に協力を呼びかけ、印西市から花苗の提供を受けて市所有の花壇で実施しています。

近所にお住まいの親子連れ等毎回100名以上が参加し、みんなで楽しく力を合わせてたくさんの花を植えています。この活動は平成30年度から実施しており、引き続き、地域に寄り添いながら、環境配慮に向けた連携意識を高めていきます。



▲花植えの様子

担当者のひとこと

千葉ニュータウンの住民や就労者の皆さまが千葉ニュータウン中央駅を利用する時、一時的癒しを感じ、笑顔が浮かべられるよう、花植えを行いました。

植えている際には住民の方々との会話もでき、またまちに愛着をもていただくきっかけとなる楽しい花植えとなり、環境意識の向上に資するコミュニケーションが図れました。

千葉ニュータウン（千葉県）は印西市、白井市、船橋市の3市にまたがった北総鉄道沿線に広がるエリアです。様々な商業施設等の建設の影響から、特に印西市は人口増加率が全国3位となっており、これからさらなる発展が期待できるエリアです。

また千葉ニュータウン内のUR賃貸住宅は、床面積100平米を超える住戸が多くあることから、URとしては、ファミリー層にお住まいいただくための施策の検討を進めてきました。

その施策の一環として、千葉ニュータウンの都会と自然が共存する環境に即して、「つくる喜び、手触りのある暮らし」をコンセプトにした屋外拠点「TAKABANA BASE」を千葉ニュータウン高花団地（千葉県印西市）にオープンしました。

ここでは家庭から出る生ごみをコンポストでたい肥化

し、そのたい肥でガーデンづくりを行い、さらにそこで取れた野菜を食べるという資源循環型ガーデンを中心に、様々な循環に参加者が楽しんで参加できるコンテンツを提供しています。

「難しい」「ハードルが高い」とわれがちな環境負荷低減に資する取組を誰もが楽しみながら参加できるようにすることで、参加者同士のコミュニティを醸成しつつ、環境への意識向上を目的として活動しています。また、地元の様々な企業や団体、農家さんと連携し、千葉ニュータウンの魅力発信の拠点になることも目指しています。

これまでに、循環型ガーデンづくりや、コンポスト講座、有機野菜を使った料理教室、廃材を使ったDIYワークショップ等を開催し、こどもから大人まで、延べ約150名の方に参加いただきました。また、コンポスト講座への参加者は延べ約30名となりました（生ごみをたい肥化することで、CO₂を約8kg程度削減できる計算になります）。

今後も「TAKABANA BASE」にて同様のコンテンツ提供を継続していく予定です。多くの方々にこの取組に参加していただき、団地及び千葉ニュータウンの魅力向上を実現しつつ、さらには環境への意識向上や資源循環が当たり前になる社会を目指したいと考えております。

※コンポスト基材1つあたり、200～300g/日の生ごみを2～3か月投入可能。
今回は250g/日の生ごみを2.5か月投入し続けたことを想定し、投入した生ごみの量に生ごみ係数0.35（出典：NPO法人循環生活研究所）をかけて算出。



▲廃材を使ったDIYワークショップの様子



▲循環型ガーデンの植え付けの様子（令和6年5月）



▲循環型ガーデンの様子（令和7年2月）

担当者のひとこと

「TAKABANA BASE」での環境問題解決のための体験等を楽しんでいただくことを通して、「環境問題は意識が高い人だけが取り組むもの」という意識を変えつつ、同時に地域住民同士のつながりが生まれる拠点にしていきたいと考えています。

グリーンヒル寺田（東京都）は、八王子市西部の緑豊かな場所に位置しています。

自然豊かな団地環境の中で過ごすことが生活の一部となるよう、どなたでも気軽に行えるチェアリング※を中心としたライフスタイル提案イベントを令和6年3月から10月までの間に計7回開催し、団地内外から延べ700名の方にご来場いただきました。

チェアリングとともに、団地内外で活動される方々のご協力のもと、あそびの体験や物販等のコーナーを設けました。工作ワークショップは毎回実施し、団地内の清掃時に収集された枝や木の実をフォトフレームづくりや

粘土細工等の材料として利用する等、周囲の自然を活用する取組も大好評でした。

来場者とともにイベントを運営する担い手も一緒に楽しみながら、自然の下に集い過ごすことで新たな交流が生まれ、回数を増すごとにコミュニケーションを深めることができました。

今後も、にぎわいや交流を創出し、自然と団地環境を身近なものとして感じていただけるよう取り組んでいきます。

※アウトドア用の折り畳みイスを置いて、座ってリラックスしたり、本を読んだり、思い思いの時間を過ごすアウトドア・アクティビティ。



▲団地内清掃で収集した枝等を活用した工作ワークショップ

担当者のひとこと

イベントには多世代の方、様々な国籍の方が集い、ミストコミュニティが実現する場でもありました。屋外でのびのびと楽しむ皆さまの笑顔が印象的で、地域コミュニティの大切さを実感しました。今後の取組へ期待の声も多数いただき、引き続きご縁を大切にしながら、地域の皆さまとともによりよい居場所づくりができればと思います。



▲商店街広場の一角に滞在する場所をつくり開催



▲イベントチラシ（第7回）

海外における環境に配慮した都市開発等への貢献

ＵＲが蓄積してきたまちづくりや住まいづくりのノウハウ等を活用し、関係府省、我が国事業者及び関係公的機関との連携を進めることで、我が国の事業者がアジア等の新興国における都市開発等へ参入できるよう促進し、これらの国の政府や関係機関へ働きかけています。

循環共生型都市開発等へのニーズに対する支援

我が国事業者等の連携体制構築支援や海外展開にあたっての技術支援、専門家派遣等の人的支援を通して、アジア等の新興国において急速に高まる循環共生型都市開発等へのニーズに対する支援を行っています。

地域の有志による景観づくり・コミュニティ形成の活動支援

ＵＲは、地域の方々の主体的な活動を支援し、コミュニティ形成や地域の活性化を通して環境にやさしいまちなみをつくれます。

事例紹介

有志職員による地域向けイベント・清掃活動の実施

ＵＲ本社が所在する神奈川県横浜市の北仲通南地区において、本社を構える企業市民として社会的責任を果たすため、職員の有志が「Open Kitanakaminami Project（通称：OKP）」として、エリア価値向上の検討・実践のための様々な活動をしています。

横浜市役所を始めとした周辺の関係者と連携して、地域の方向けのイベントを実施しており、令和6年5月には静岡県沼津市及び広島県福山市、同じく10月には長野県茅野市の協力を得て、ＵＲがまちづくりの支援をしている地方公共団体のＰＲ活動を行いました。このほか、



▲イベントの様子

URによる能登半島地震の復旧・復興支援の取組をPRするとともに、被災地応援企画として募金活動や被災地の事業者が製作したグッズの応援販売等も行いました。

また、毎月月末に本社周辺の清掃活動を行っています。同じジャケットを着用して定期的・継続的に実施することで、地域の方からも認知されるようになり、令和6年9月には地域のボランティア団体と行政が協働して身近な道路の美化や清掃等を行う「ハマロード・サポーター」として横浜市から認定を受けました。

今後も、エリアへの来訪者や近隣の皆さまから親しみを持っていただけるような活動を進めるとともに、まちの環境維持に貢献します。

▶ハマロード・サポーター
認証式



▲清掃活動の様子

民間事業者等との連携の実施

民間事業者等と連携した環境課題解決に資する取組を実施しています。

事例紹介

環境課題解決に資する実証実験への場の提供

森之宮地区（大阪府大阪市）では、旧UR西日本支社であったUR森之宮ビル、森之宮団地、森之宮第二団地について、「あたらしい関係や交流の形成」「あたらしい価値の創出」を目的とした先端技術を活用した実証実験の場として提供しています。URと大阪商工会議所による公募で選定された、株式会社リアライズ造園設計事務所による「ICタグとスマートフォンアプリを活用した樹木管理システム」や、スパイスキューブ株式会

社による「小型CO₂濃縮供給装置による室内農業生産システム」の構築に係る実証実験を採択することで、環境課題の解決に資する他、大阪府市が掲げる「イノベーション・フィールド・シティ」の実現に向けた技術の発展にも貢献しています。



▲小型CO₂濃縮供給装置による室内農業生産システム



▲ICタグ設置状況



▲ICタグ読取作業